

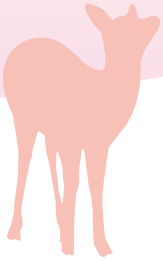


まほろばだより

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

2017
August
vol.22

第22号



Contents

- ① 第6回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました
- ② 本学の教員・研究者・学生と附属病院勤務医の女性割合を分析しました
- ③ FD講演会「大切なことは全て地域から学んだ～住民、多職種、医師が支えあう地域医療～」を開催しました
- ④ FD・SD講演会「奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく講演会」を開催しました
- ⑤ Information



Report 1

第6回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました

6月13日、本学基礎医学棟第一講義室にて「第6回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞授賞式」を執り行いました。

本学では、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。

今回は、3月24日に選考委員会が開催され、県民健康増進支援センター 富岡公子特任准教授が受賞されました。授賞式では、細井学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、富岡特任准教授が「地域在住高齢者の健康長寿を規定する要因」について講演されました。



【富岡先生からのコメント】

この度、第6回女性研究者学術研究奨励賞を受賞させていただき、ご指導いただいた車谷典男先生、細井裕司先生、関係者の方々に深く感謝申し上げます。私が所属しております県民健康増進支援センターは、健康長寿のエビデンス作りを目指して、地域在住高齢者を対象とした疫学研究を続けて参りました。研究成果として、難聴対策、趣味・生きがい作り、社会参加の推進、主観的健康観への対策が健康長寿社会を実現する上で有効であることを提示しました。この受賞を励みに、更に奈良県民の健康長寿に貢献できるよう、今後も研究に励んで参ります。



Report 2

FD講演会「大切なことは全て地域から学んだ～住民、多職種、医師が支えあう地域医療～」を開催しました

4月21日、教育開発センターと共催でFD講演会「大切なことは全て地域から学んだ～住民、多職種、医師が支えあう地域医療～」を開催しました。

おおい町国民健康保険名田庄診療所所長、自治医科大学地域医療学臨床教授の中村伸一先生をお招きし、住民、患者、看護師、医師、医療技術職員、事務職員、行政職員が連携して地域医療を支える、おおい町名田庄地区の取り組みについてご講演いただきました。男女を問わず地域の医療活動に参画し、共に責任を担う名田庄地区の取り組みは、医療分野における男女共同参画や地域医療の在り方を考える際に、新たな視点を私達にもたらせてくれました。中村先生のご講演は、学内外93名の参加者が、自分の仕事や生き方について考える大変貴重な機会となりました。



本学の教員・研究者・学生と附属病院勤務医の女性割合を分析しました

平成 28 年度医学科女性教員採用割合は 28.6% に上り (図 1-1)、医学科女性教員および医学部女性研究者の割合も、センター設立前の平成 22 年から徐々に増加しています (図 1-2)。しかし、平成 29 年度の博士課程大学院進学の女性割合は医学科女子学生の 26.6% と比べて 17.5% と低いため (図 2)、学部学生や臨床研修医に対して、学位取得の意義やアカデミックキャリアについて考える機会を、今後も提供することが重要と考えます。

図1-1 女性教員採用割合と離職率

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
医学部女性教員採用割合	13.2	22.2	31.4	27.3
医学科女性教員採用割合	11.4	16.7	22.2	28.6
医学部女性教員離職率	6.6	9.5	9.1	14.1
医学部男性教員離職率	10.0	9.1	11.8	9.1
医学科女性教員離職率	6.7	13.3	10.4	18.9
医学科男性教員離職率	10.2	9.3	12.0	9.3

注)

- ◆女性教員採用割合 (%)
= 女性教員採用数 / 男女教員採用総数 × 100
 - ◆女性教員離職率 (%)
= 女性教員離職数 / 女性教員数 × 100
 - ◆男性教員離職率 (%)
= 男性教員離職数 / 男性教員数 × 100
- ※離職者に定年退職者は含まない

● 本学正規教員における女性割合

医学科女性教員：平成22年度（女性研究者支援センター設立前）34名 ⇒ 平成29年度 55名（21名増）

医学科女性教員割合 11.2% ⇒ 16.4%（5.2%増）

医学部女性研究者：平成22年度（女性研究者支援センター設立前）119名 ⇒ 平成29年度 183名（64名増）

医学部女性研究者割合 23.1% ⇒ 27.6%（4.5%増）

図1-2 女性研究者割合の推移

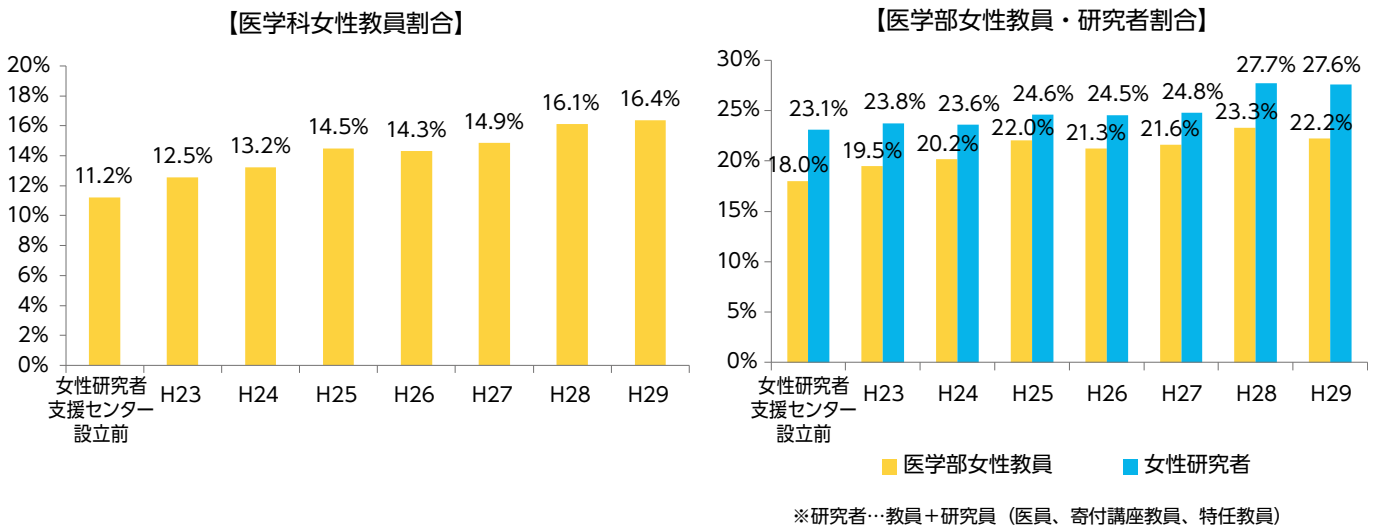
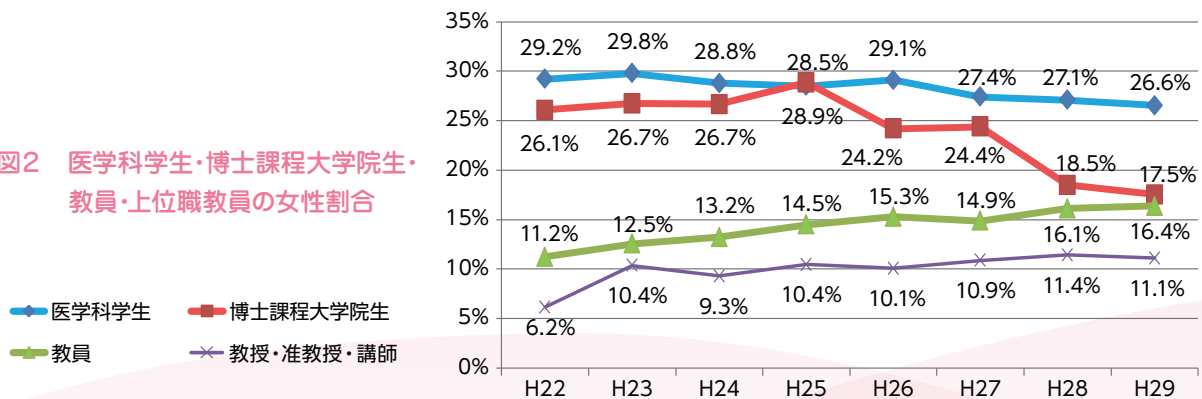


図2 医学科学生・博士課程大学院生・教員・上位職教員の女性割合



平成 29 年度の臨床医学系女性教員数は、37 名に増加し中期計画目標の 33 名を上回っています (図 3)。しかしながら、医学教育に携わる臨床医学系教員に占める女性割合 (14.2%) は、医学科学生的女性割合 (26.6%) および臨床研修医や医員 (後期研修医、医員、病院助教、診療助教) の女性割合 (33.0%~44.4%) を大きく下回っています (図 2 および 図 4)。

女性研究者支援センターでは、今後も引き続き、臨床医学系女性教員の増加に向けて、多方面にわたる活動を続けていきたいと思ひます。

図3 臨床医学系女性教員数の推移

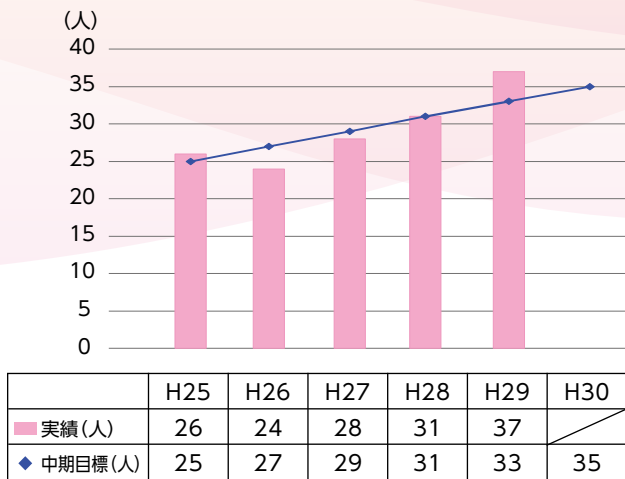
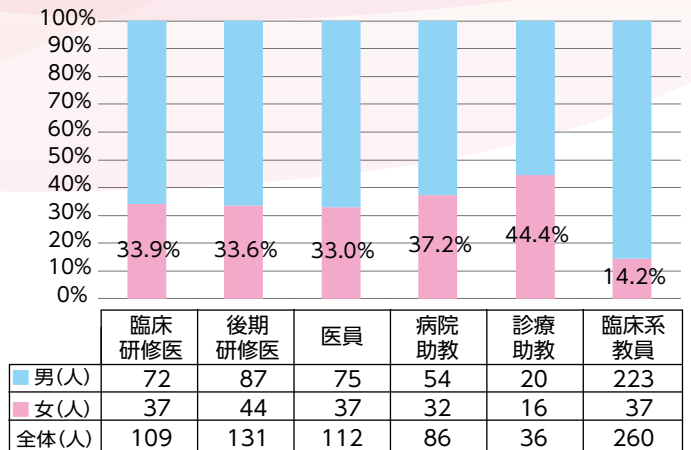


図4 附属病院勤務医の職位別の男女割合

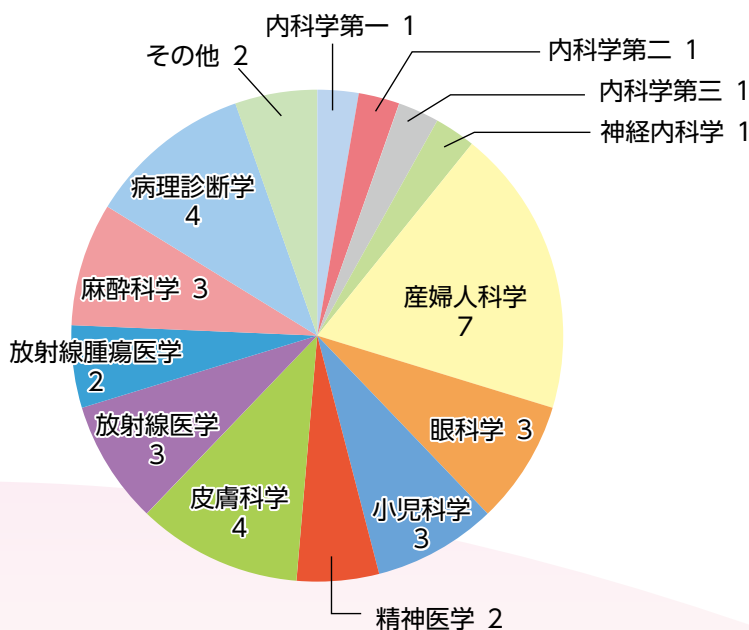


臨床医学系女性教員 37 名の所属内訳は図 5 の通りです。産婦人科学講座では、7 名と最も多くの女性正規教員が活躍されています。産婦人科学講座に次いで、皮膚科学講座と病理診断学講座には 4 名の女性教員が在籍し、これら 3 講座では、講師以上の上位職として女性教員が活躍しておられます。本学で医局機能を持つ 22 講座+感染症センターの 23 医局の中で、講師以上の上位職に女性が在籍する医局は 8 医局(産婦人科学、皮膚科学、病理診断学、放射線医学、小児科学、眼科学、放射線腫瘍医学、内科学第一)です。これら 8 医局では、内科学第一を除く 7 医局全てにおいて、2 人以上の複数の女性教員が在籍しています。講師以上の上位職で女性が活躍する医局では、複数の女性教員が在籍する確率は 87.5% (8 医局中 7 医局) であるのに対し、講師以上の上位職に女性がいない医局では、複数の女性教員が在籍する確率は 13.3% (15 医局中 2 医局) と、統計学上有意に低くなります。上位職に女性が在籍する医局では、後進の女性医師の育成も進んでいると考えられます。

一方、女性正規教員が平成 29 年 5 月 1 日時点でゼロである医局は、下記の 10 医局となっています。これら 10 医局の中には、女性の正規教員は在籍しないものの、女性の診療助教が在籍する医局が、4 医局(消化器・総合外科学、整形外科、泌尿器科学、総合医療学)あり、今後新たに女性教員が就任することを期待したいと思います。



図5 臨床医学系女性教員の所属内訳



● 女性正規教員がゼロの 10 医局

消化器・総合外科学、脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、整形外科、泌尿器科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、総合医療学、口腔外科学、救急医学、感染症センター



※数値は全て平成29年5月1日時点のものです (人)

FD・SD講演会「奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく講演会」を開催しました

6月16日、女性の健康支援と男女共同参画をテーマに奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流協定に基づく講演会（平成29年度FD・SD講演会）が、開催されました。

車谷典男副学長の開会挨拶の後、同志社女子大学現代社会学部 谷直之教授が「現代社会における女性—ジェンダー・ギャップと女性の貧困—」について講演され、続いて、本学女性研究者支援センターマネージャー 須崎康恵講師が「本学における男女共同参画の現状」を報告しました。

谷直之教授は、世界経済フォーラムが発表した2016年各国の男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数において、日本は144か国中111位と男女平等が実現されておらず、特に経済と政治参画の分野で男女格差が大きいことを説明されました。母子家庭の就業や所得の現状、子どもの相対的貧困率の上昇、育児や介護等、女性が直面する厳しい現実についても示され、様々な立場の女性に対応する医療従事者は、社会の現状を知ることが大切だと話されました。須崎講師は、本学教職員の職種別男女割合や管理職割合、全教職員に行ったワークライフバランス推進のためのアンケート結果、医学生のカリヤに関する意識調査結果等を示し、本学における男女共同参画の現状について報告しました。生涯を通じた女性の健康支援のためには、医療従事者自身のワークライフバランスの確保、就業継続、多様な働き方を進めることが大切であり、組織の意志決定過程への女性の参画拡大が重要であると説明しました。

当日は110名の教職員が参加し、参加後のアンケートでは、「女性や子どもの貧困について考える良い機会になった。」「社会学的視点の重要性を改めて認識させられた。」「奈良医大の現状と課題がよくわかった。」「男女共同参画の今後の方向性を考える上で参考になった。」といった感想を多数いただきました。



講演会当日の様子（病院玄関）



車谷典男副学長



谷直之先生



須崎康恵先生



講演会の様子

Information

I 「女性研究者支援センター」のホームページのご案内

当センターのホームページでは本年度の活動方針のほか、本学女性教員の割合やニュースレターまほろばだよりのバックナンバーなどを掲載しています。ぜひご覧ください。

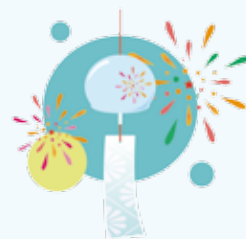
▶ <http://www.naramed-u.ac.jp/~josei/>

II 男女共同参画に関する発表資料の作成のお手伝い

男女共同参画に関する発表をされる際、本学女性教員の割合などの資料をご要望の場合は、PowerPointのスライドの貸出を行っております。ご要望の際は、当センターまでお気軽にお申し付けください。

III 女性研究者の科学研究費申請推進事業

昨年度科学研究費に申請されていない女性診療助教と講師以下の臨床医学部門女性教員および看護学科女性教員を対象として、民間会社への委託による申請内容の面談や書類の添削を行う女性研究者の科学研究費申請推進事業を行っております。指導を受けることで申請内容をブラッシュアップしていただき、より多くの方が科研費を申請し、採択されることを目的としています。



[編集後記]

今号から初めて編集に携わることになりました、当センターのスタッフです。講演会などのイベントや本学の女性の活躍などの報告を通して、当センターのことをもっと知っていただき、女性が働きやすい職場づくりにスタッフ一同力を合わせて取り組んで参りたいと思います。

暑い日が続きますが、本学のすぐ近くにある「おふさ観音」では8月末まで風鈴まつりが開催されています。境内にある数々の風鈴が奏でる涼しげな音色に皆様も癒されてみてはいかがでしょうか。

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840

奈良県立医科大学基礎医学棟5階

TEL：0744-23-8011（直通）0744-22-3051（代）内線：2525

E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

